

EPA ハノイ便り

3月号

令和2年3月12日

ARCベトナム校発行

社会文化適応研修

第8陣が開講してから、3か月が過ぎました。開講当初は緊張気味だった候補者も研修所の生活に慣れて、制服姿がすっかり板に付きました。友達や先生と、習ったばかりの日本語を使って積極的に話しています。

候補者は日本で、看護や介護の現場で働くこととなります。職場のマナーや仕事への意識など、ベトナムとは異なる環境になじみ、そこで活躍していかなければなりません。また、社会規範や生活スタイルにも大きな違いがあります。彼らが日本での生活に適応できるよう、1年間の研修の中では、日本語だけでなく日本社会や習慣についても学習していきます。その中心的な役割を担っているのが「社会文化適応研修」です。



↑ 社会文化適応研修の様子

社会文化適応研修は通常の授業と異なり、4〜5クラス合同で行われます。70〜80人の候補者が広い教室に集まり、日本人講師とベトナム人講師が協力して授業を進めていきます。動画や写真をふんだんに使い、時には実物も用いて日本の雰囲気が感じられるよう工夫をしています。また、授業では毎回日本の歌も練習します。歌の時間を楽しみにしている候補者もいれば、日本的な音階やリズムに四苦八苦しながらがんばっている候補者もいるようです。



3月のはじめには、病気の予防について勉強しました。集団で生活する際に気をつけなければならぬ感染症や、その予防について講義を受け、意見交換をしたあとでグループにわかれて自己啓発ポスターを作りました。候補者は大学で看護の知識を学んでいるため、例年この内容の授業は非常に熱気があります。今年はコロナウイルスの世界的流行と重なったこともあり、特に盛り上がったようです。ポスターもたくさんさんの力作が生まれました。今後、これらのポスターから先生方の投票で優秀作品を選び、研修所内に掲示する予定です。

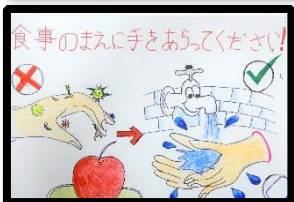
↑ 日本語の歌を練習中。
中には歌手のように上手な人も…。

社会文化適応研修ではこのほかにも「日本の冠婚葬祭」や「ごみの分別・リサイクル」、「食事のマナー・食習慣」などを勉強します。書道やゆかたの着付けなど、文化体験も予定されています。

ハノイの研修所には、日本人講師もたくさんいますが、実際に日本へ行ったことがある候補者はほとんどいません。社会文化適応研修で、日本の社会や文化について勉強したり、実際に体験してみたりすることは、将来、候補者が日本で働くときに役に立つでしょう。これからもたくさん日本のことを学んで、日本で働く日のために、イメージを膨らませてもらいたいと思います。



↑ 「病気の予防」の授業



→ 勉強した日本語を使って、ポスターを作りました。